

中国秋季リーグ戦男子 1 部 First stage 及び女子 2 部 1 週目結果報告

広島大学体育会バレーボール部同窓生の皆様

(同窓会連絡フォームへ登録いただいた皆様及び同窓会やコートの仲間等でご連絡いただいた皆様へお送りしています。)

いつも大変お世話になっております。

広島大学体育会バレーボール部です。

10/4～5 に広島大学北体育館及び西体育館において、中国秋季リーグ戦男女 1 部 First stage が開催されました。また、周南公立大学体育館において、男女 2 部 1 週目が開催されました。

広島大学の結果は、以下のとおりです。

(男子)

vs 広島経済大学

○3-0 (28-26、25-21、25-22)

vs 島根大学

○3-0 (25-12、25-17、25-22)

vs 福山平成大学

●0-3 (14-25、18-25、15-25)

(女子)

vs 山陽学園大学

○2-0 (25-21、25-16)

vs 周南公立大学

○2-0 (25-20、25-20)

vs 川崎医療福祉大学

○2-0 (25-9、25-18)

(中国学連 HP)

<https://chugoku.hiroshima-u.ac.jp/league-aki-top.html>

2024 年の春リーグ 2 回戦以降、広島経済大学戦は 2-3、2-3、2-3、2-3、0-3 とリーグ戦 5 連敗中のなか迎えた開幕戦、観ている人たちを驚かせ、目の前のワンプレーから目を離させず、そして心を掴んだのは紛れもなく広島大学でした。先に 2 点ビハインドでセットポイ

ントを奪われながらも、序盤に連続失点で先行されながらも、自分たちのやるべきことが何一つブレることなく、この秋リーグのために準備してきたことの数と質が、もう圧倒的に違い過ぎました。相手からすると、決して調子が悪いわけではなかったけどミスが多かった、と感じたはずですが、そのミスのほとんどは広大が戦略的に出させていて、必然的にミスをしてしまう状況を作り出せていたことに、決してホームアドバンテージによる勝利ではない、チームの芯の強さを感じました。序盤、中盤、終盤、得点差、ローテーション、自分たち、相手の状態によって、非常に柔軟に、かつ最も効果的な方法を選択できていたことが印象的で、1年生の頃から考えるバレーボールを貫いてきた水谷（4年・三重・松阪高校）だからこそそのチームカラーが爽快で清々しく、目に見える集中力が引き締まった試合と大会を生み出しています。福山平成大学にはほぼ全ての面で上回られているものの、その平成を追いかける一番手が広大で、その広大を目指して下位チームが追いかける様相が、この秋リーグを非常に面白くさせています。台風の日となるにはそれだけの責任と実力が必要ですが、自分たちがリーグ戦を盛り上げるという強い意志でこれまで取り組んできたことと思いますので、次の舞台に向けて体のケアやチームの仕事など、再び一つ一つを積み重ねて欲しいと思います。

1か月前の五大学で既に頭角を現していましたが、1年生の川村（東京・日本大学第三高校）はまた階段を上ったと思わせてくれた場面がいくつもありました。相手が何とかつながったボールを打ち込んでくるときにフルジャンプの一枚ブロックでシャットしたり、速攻はA側だけではなくC側にも回ったり、相手の動きを見て落ち着いて軟打で得点したり、苦しい場面で声を出して相手ブロッカーを引き付けたりと、求められていることへの理解力、実行力、そしてまだまだ上を目指す挑戦力が、誰の目にも留まる躍動感につながっています。体幹を生かした空中での時間の使い方にも幅が生まれていて、力強く打つ以外の選択肢が常にあるところが大人だし、広大のセンタープレーヤーとして初めての領域にまで到達できる可能性すら感じます。終盤に真ん中の攻撃があるかどうかで20点以降の戦い方が変わってくるのはもちろん、特に一発勝負のトーナメント戦では勝敗に直結しますので、県インカレや全日本インカレに向けて更なるステップアップを期待せずにはいられません。

2日間3試合、9セットとは思えないほど中身の濃い内容でしたが、中でも島根大学戦の2セット目、16-12で迎えた長いラリーにこのチームの強さが詰まっていたように感じました。エースの山下（4年・広島・安古市高校）がフロントに上がってきたローテで、両者3本目を攻撃につなげ、打ち合って拾い合う好ラリー。結果は広大が取って、その後も水谷の効果的なサーブで一気に20点まで走ったところも素晴らしかったのですが、ラリー中の一つ一つのプレーの精度が非常に高く、低い姿勢から時間を作り出す一本目の技術や、割れたところからでも攻撃につなげる新谷（2年・広島城北高校）の二本目、相手を見て、もらうプレーもできる山下、川村、松本（3年・兵庫高校）の巧みな三本目など、広大が常に良い形を

作ることに余念がありませんでした。若いチームだと、バタバタしてしまう、とよく表現しますが、平成と広大の2チームにはそれがないんですよね。広大の場合、水谷、山下、新谷はビーチバレーで培ったトスアップ力が生きてるように感じます。崩れたところからでも攻撃できるのが強いチームですが、それは周りから見ると崩れたように見えるだけで、その形でも練習量を積んでいるからそれも自分たちの形になるものです。チャンスボールから気持ち良く打つだけの練習をしていないのは明らかで、自分たちで課題を見つけ、それを克服するための練習と試合が結びついていることをとても頼もしく思います。今回の経大戦では切り返しから1本で切れる場面が目立ちましたが、次はそう簡単にはいきません。平成が強いサーブと3枚ブロックで広大を攻略したように、相手はミスを割り切って果敢に攻めてくることでしょう。お互いがっぷり四つの下関ラウンドは、今回と同じく体育館一面で、アップゾーンの声が強い広大にとっては追い風です。4年間のハイライトは全日本インカレかもしれませんが、次週が今年のハイライトとなるように、この2週間、そして長距離遠征になるので行って帰るまで抜け目なく過ごして欲しいと思います。

今週末は、12日（日）に岡山大学体育館で男女2部最終日が行われます。
引き続きよろしくお願いいたします。